

このたびの鹿児島県の反乱軍鎮圧は、簡単に収まる事件ではなく、開戦してからすでに四十日が過ぎ、攻撃は昼夜続き、死亡、負傷した兵士はものすごい数とのこと、戦地の状況を聞くと傍観していることはできません。そもそも戦死者は深く憐れむのは当然のことではあるが、生き返らせることはできません。負傷兵は苦痛で生死の境をさまよっているのです、あらゆる方法で救助することが必要だと思います。政府は必要な医療は整備しているとはいっても、連日の激戦によって負傷兵は増え続け、手の届かないこともあると思います。

天皇陛下も大いに心配され何回も慰問の使いを送られています。皇后陛下も、また多大の支援をされているとのこと、臣下として感激しております。つきましては、私共はこの状況において、これまで臣下である私達が受けたご恩を、万分の一でもお返しするため、組織を作り博愛（社）と名づけ、広く呼びかけて有志者の協賛を求め、社員を戦地に派遣し、陸海軍軍医長官の指揮を仰ぎ、政府軍の負傷者を救護したいと思います。また、反乱軍の死傷者数は政府軍の倍であるばかりでなく、救護の方法も整っておりません。負傷兵を、雨露にさらして收容することもできないとのこと。この反乱軍兵士は、大義を見誤り、天皇の軍と敵対しておりますが、わが国の国民であります。天皇の子供です。負傷して死ぬのをただ待っているのを顧みないというのは、人としてできないことでもあります。收容し手当てしたいので、ご許可いただければ、皇室の寛大なお気持ちをお示しするだけでなく、反乱軍兵士を感化することにつながるでしょう。欧米の文明国は、戦争のたびに募金したり、物資を送ったり、人を派遣して、敵味方の別なく救護をしています。本件は一日の遅れも幾多の人命に影響することから、即決で急ぐ必要がありますので、なにとぞ当方の真意をお汲み取りいただき、ご指令くださるよう社則一通を添えてお願いする次第です。

明治十年四月六日

議官 佐野常民

議官 大給 恒

岩倉右大臣殿